

<事業所自己評価>

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 生きがい十和田	事業所名	ナースケア24
所在地	(〒 034 - 0005 ) 十和田市大字三本木字一本木沢 93-7		

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 1 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	( 27 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	グループラインでの情報共有を継続しながらも、個人情報の管理として個人が特定されないような表記の仕方に改善する。 申し送りノートを確認した場合の手順を全職員が実施できるように随時確認・声かけをする。	グループライン内での表示は簡潔にし具体的な内容については各自支援経過を確認するよう促していく事にした。また、名前の表記は外部の人が特定しにくいように工夫した。 申し送りノート確認後の手順については、定着していると	グループラインを活用した情報共有はこれまで通り外部の人が目にした場合特定できない様に配慮しながら継続していく。 その他、職員が安心して働く事ができる就業環境の整備について、来年度は毎月職員から困りごとや確認したいこ	グループラインの活用については手軽に出来るが、個人情報の管理という部分で完全ではない為、工夫をする必要がある。 新人職員や特定技能職員も事業所の理念を理解し自分の目標をもって取り組めるような配慮と工夫が必要。

			<p>はいいがたい状況だが、朝礼で申し送りノートの内容を読み上げみんなで確認している。(朝礼時、申し送りノートの読み上げのほうが、職員に負担が少ない形で情報共有ができるかもしれない。)</p>	<p>と、業務改善のアイデア等を提出してもらおう。それをもとに、職員で改善案を検討していく。</p>	
<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>毎月、テーマごとに内部研修の実施し、職員の理解度の確認をする。 細かい介護の仕方を勉強・共有するために介護会議を定期的に開催し、日ごろの気づきや困難ケースのうまくいった対応方法について共有する。</p>	<p>勤務時間内にテーマに沿った研修ができるよう、e-ラーニングの教材を活用し全職員が取り組む事ができた。 介護会議を定期的に開催することが出来なかったが、グループラインを活用し、ケースに対しての介護方法の Point を伝達した。</p>	<p>業務外で改めて集まる方法よりも、グループラインやe-ラーニング等を活用したほうが負担なく研修や介護技術方法についての習得ができたので今後も継続していく。 ケアプランを各職員が確認しやすいよう回覧の方法を検討し実施する。</p>	<p>業務に負担にならないように工夫し、知識の習得を継続してほしい。</p>
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>医療機関との連携にはスムーズに図れているため、様々な相談も継続して行う。 運営推進会議の対面での開催の実現。</p>	<p>医療機関との連携は、MCS のツールの活用が活発になり、より一層連携できた。 運営会推進会議については、今年度は対面での開催ができた。</p>	<p>運営推進会議のご家族様の参加が難しくいつも固定されたご家族様の参加となっているため、その他のご家族様の参加を促していく。 参加できないご家族様の意見等も確認していく。 運営推進会議録は全ご家族様へ配布できている。</p>	<p>もっと色々な人が運営推進会議に参加し、施設の事を知る機会になればと思う。</p>

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	地域行事への参加していく。 発行している新聞に看護・介護の豆知識の掲載をし地域への情報発信を強化する。	地域の花火大会に参加し、地域の方々と交流することができた。 発行している新聞に看護・介護の豆知識を掲載し地域へ情報発信することが出来なかった	来年度も地域行事への参加をし交流を図る。 発行している新聞を町内会の回覧板で回覧し情報発信をしていく。	町内会の花火大会は一本木沢のみ行っている行事なので楽しんでもらいたい。 地域にこんな施設があるんだという事をもっと広めて欲しい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)	緊急ショートを受け入れや急な泊り利用に対応できるように部屋の空き状況を調整する。 在宅生活への移行の際にご家族様が不安な事はないか等について意向の確認をしながらサポートしていく。	他事業所と連携し緊急ショートを受け入れができた。今年度は2名できた。 終末期に自宅への外出希望があり、家族と相談しながら一時外出ができた。 今年度お看取りのサポートをさせていただいた方は10名です。	看護小規模多機能型居宅介護の役割として登録者以外の方が緊急ショートの利用ができるよう、他事業所と連携してサポートしていく。 終末期に関わらず、ご本人やご家族様のご希望が実現できるよう、意見交換をしながらサポートしていく。	在宅で介護をしている家族の気持ちは揺れ動くので、その時々で気持ちを聞く必要があるのではないか。ケアマネが変わらないでショート利用ができる事を知らない方もいるので、周知してほしい。	

※「進捗評価(運営推進会議における意見等)」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画(案)」および「運営推進会議における評価」

項目	改善計画(案)	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	・情報の共有は引き続きグループラインを活用していくが、万が一の時に特定されにくいような工夫をしながら継続していく。	・グループラインの活用については手軽に出来るが、個人情報の管理という部分で完全ではない為、工夫をする必要がある。 ・新人職員や特定技能職員も事業所の理念を理解し、自分の目

		<ul style="list-style-type: none"> <li>各職員から、毎月、困りごとや確認したいこと、業務改善案などについて記載し提出してもらい、現状を把握しながらその時の状況にあった業務改善をしていく。</li> </ul>	<p>標をもって取り組めるような配慮工夫が必要。</p>
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-ラーニングやグループラインを活用し、知識向上や介護技術の習得を継続していく。</li> <li>各個人のケアプランを全職員が確認できるように回覧の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の負担にならないように工夫し、研修やカンファレンスし職員のレベルアップを図って欲しい。</li> </ul>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご家族様の運営推進会議の参加の充実を図れるように参加を促す。</li> <li>参加が難しいご家族様の意見等の把握ができるよう、アンケート形式で確認していく。</li> </ul>	<p>もっと色々な人が運営推進会議に参加し、施設の事を知る機会になればと思う。</p>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事への参加継続(花火大会等)</li> <li>ナースケア新聞を町内会の回覧板で回覧し地域住民に情報発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナースケア新聞は毎月20日までに準備すると回覧板に掲載することができる。</li> <li>来年度も町内会の花火大会を行う予定なので参加してほしい。現地に参加できない場合でも施設からも見学できると思う。</li> </ul>
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		<ul style="list-style-type: none"> <li>他事業所と連携し緊急ショートを受け入れができるよう部屋の調整をする。</li> <li>終末期に関わらず、ご本人様やご家族様の希望が実現できるよう多職種で意見交換しながら検討していく。</li> </ul>	<p>在宅で介護をしている家族の気持ちは揺れ動くので、その時々で気持ちを聞くなど、状態に応じた柔軟なサービス利用ができることを周知してほしい。</p>